

「全国学力・学習状況調査」を活用した授業改善

●授業実践アイデア例（授業全体や単元全体を見通した授業改善の具体例）

全国学力・学習状況調査の問題や結果等を踏まえて、『思考し、表現する力』を高めるための実践モデルプログラム』を活用した授業全体や単元全体を見通した授業改善の具体例を示しています。

全国的なアイデア例

中学校・国語科「相手の思いを引き出すインタビューを通して自分の考えをまとめよう」（1年生）

全国学力学習状況調査の結果分析から

課題の見られた問題

問題 1～4

◎領域「A 話すこと・聞くこと」

◎評価 思考・表現

「出題の背景」を読み取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめる

調査結果	平均	最低	標準	全国	標準	最低	全国
割合	81.1%	82.5%			82.0%	82.0%	

●学習指導要領における内容

「話すこと・聞くこと」

(1) ア 目的や場面に応じた、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討すること

(2) ア 必要に応じて記録した内容を整理し、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめること

課題

読み取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめることができるかどうかを評価する形式の問題であるが、全国平均に比べ、割合が低い。

調査の解答類型を分析すると、「自分の考えを書く」という条件を満たしていないものの割合が高く、「目的意識」をもって聞くことが課題である。

授業改善

①実践モデルプログラムの過程に対応させて作成した「話すこと・聞くこと」の単元を作成する。

②今年度の「話すこと・聞くこと」の単元は、全国的な学習の時間と関連させた場面設定となっていたので、「教科等横断」「目的意識」「ICT活用」をキーワードに作成する。

見いだす 一語目の見出しをもつ

◎教科等横断

第1時

総合的な学習の時間では、自分の前向きな行動のために、様々な職業や働き方について調べ学習を行ってきたが、今回の調査の結果は、皆さんが興味を持った仕事について、実際に働いている方にインタビューをして、働く上で大切なことを考えてみよう。

◎実際のインタビュー動画から、話者の思いや考えを聞き出すインタビューにするためにはどのような工夫が必要か考える。

授業改善のポイント

指導事項を具現化したインタビュー映像を教材として、生徒自身に「偶然としたインタビュー」ではなく、「関心するしるしや思いのあるインタビュー」をすることが重要であることを実践的に伝えたい。

自分を取り組む 一語目を決め、質問内容を考える

◎目的意識

第2時

地域にある会社で電化製品を開発している方のメッセージが企業ホームページに掲載されていた。この方にさらに詳しくお話を聞きたい。

「安全だけでなく、デザイン性や利便性も気兼ねなく使えるかどうか。」「一押し理由」を知りたい!

「安全性を低くしつつ、デザイン性や利便性を兼ね備えた製品を開発するのは難しい」とあるが、具体的にどのような難しさがあるのか。」「具体例」を知りたい!

授業改善のポイント

インタビューを実施したものにするためには、事前学習を通して得た情報を基に、「詳しく知りたいこと」「疑問に思うこと」を事前に考え、質問事項をメモにまとめることが大切。

広げ深める インタビューをする

◎目的意識 ICT活用

第3時

①毎日、課題の解決方法を模索しています。

②おもしろい、私は仲間と話をしたいです。

◎タレットの録音機能を活用し、インタビューの内容を記録して残す。

◎さらに聞きたい話を引き出すために、相手の発言に自分の体験を関連付けて質問する。

授業改善のポイント

聞き取ったことを基に自分の考えをまとめることができるかをまとめることが大切である。普段から「ただ聞く」のではなく、共通点や相違点などに着目して自分の考えをもつ学習活動を展開する必要があり。

まとめあげる インタビューを通して自分の考えをまとめる

◎目的意識 ◎教科等横断

第4時

学習の振り返り（振り返りシート）

事前の準備を振り返ることができた。自分の体験と話を聞いたら、想定していたよりも様々な気づきがあった。インタビューを通じて、相手の考えをより深く理解することができた。自分の考えをまとめることができた。インタビューを通じて、相手の考えをより深く理解することができた。自分の考えをまとめることができた。

授業改善のポイント

インタビューを通じて、聞く側の思いを知ることで、相手の考えをより深く理解することができた。自分の考えをまとめることができた。インタビューを通じて、相手の考えをより深く理解することができた。自分の考えをまとめることができた。

本単元では、「インタビューをする」という活動を通して「聞く力」を育成することを目的としている。

「聞く」という活動はもとより受動的なものになりがちだが、目的や場面を明確にしたら、事前に聞くことを踏まえてメモしたりする「主体的な聞き手」を育成する必要がある。これはインタビューという言語活動に限ったことではない。

このように、全国学力・学習状況調査では育成すべき資力・能力を明確化した授業場面が調査問題になっていく。他の調査問題についても単元レベルのヒントとつながっていますので、ぜひ活用してみてください。

R5 中学校国語「相手の思いを引き出すインタビューを通して自分の考えをまとめよう」（1年生）[話すこと・聞くこと]

●課題別実践アイデア例（課題となる部分に重点的に効果を発揮する具体例）

全国学力・学習状況調査の結果等を分析した結果、具体的に課題となる部分に対して重点的に効果を発揮できるような取組について取り上げています。

課題

【算数】二つの数量の関係（割合）について考察することが苦手

手立て

問題場面から、「基準量」「比較量」「割合」の関係を、自分にとって分かりやすい図をかいて数量の関係を捉え、式を立てるよう指導する。

具体例

POINT① 割合として表される数量に関わる生活体験を豊かにする。

○「基準量」や「比較量」は変わっても、「割合」は変わらないことを確かめる。

・飲み物を実際に何等分かにして、飲み物の量、果汁の量をそれぞれ求め、それらを使って果汁の割合を求めていく。

・生活体験の中で、ジュースを分けたときに染（濃さ）が変わらないのは、割合が変わらないことに気付く。

POINT② 「日常の具体的な場面」、「図や表」、「数と式」を相互に関連付けて、割合について理解できるようにする。

○果汁の割合について、自分にとって分かりやすい図をかいて、数量の関係を捉える。

・線分図、数直線、割合図、表などを使って、果汁の割合と飲み物の量、果汁の量との関係を捉える。

・果汁4.0%とは、飲み物の量100mLだったら、果汁の量が4.0mLになるなど具体的な量に書き換えて考える。

POINT③ 割合を用いる際、比例の関係を前提にしていることを理解できるようにする。

○飲み物の量は、果汁の量に比例することに気付く。

・果汁の量と飲み物の量の表をつくり、果汁の量が2倍、3倍になると、飲み物の量も2倍、3倍になることを確認する。

・表から、(果汁の量) × (決まった数) = (飲み物の量) になることを確認する。

課題

【英語】自分の考えやその理由を書くことが苦手

手立て

コミュニケーションにおける目的・場面・状況の特定と多様な表現の構築

POINT① 目的・場面・状況の明確化

POINT② コミュニケーションにおける背景理解

POINT③ 書くこと・話すことにおける多様な伝え方の理解

具体例

POINT① 目的・場面・状況の明確化

◎自分の意思を表現する機会をつくりだす

(例) 現在完了が言語材料の要素

特定の言語材料を使って表現することと各生目的にするのではなく、学習した言語材料を使って表現したり、理解したりする目的・場面・状況を明確に設定することで、実際に近いコミュニケーションを生み出すことができる。そして、それが学習意欲につながることを期待できる。

POINT② コミュニケーションにおける背景理解

◎異文化や価値観に基づく適切な表現を促す

(例) 否定疑問文への回答

・実際に近いコミュニケーションを生み出すためには、その国の言語文化を理解する必要がある。指導者がこれを理解し、伝えにくいことで学びに深まりが生まれる。

・右の例は、日本語（文化）に基づく解釈をすると、混乱が生じる可能性があることを示している。

POINT③ 書くこと・話すことにおける多様な伝え方の理解

◎場面に応じた適切な表現を促す

(例) 中学校での思い出を伝える

・図シマや、同じ内容を表現するでも、手段（やり取り・発表・書く）や場面（フォーマルな場・カジュアルな場）、目的（交流や遊戯など）によって伝え方は変わってくる。これらを理解することによって、多様な表現を習得することができるようになる。

R4 算数「ふたつの数量の関係（割合）を考察する」

R3 英語「自分の考えやその理由を書く」

※本ページに関連する URL 及び QR コード

<https://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/shidou/gakuryoku/bunseki-katuyou/bunseki-katuyou-jugyoukaizen/bunseki-katuyou-jugyoukaizen.html>



2 「全国学力・学習状況調査」の問題・結果データの活用

●千葉県学力向上通信「COMPASS」

全国学力・学習状況調査を学力向上や授業力向上に活用していくことを中心に、学力向上に関連する情報を学校に向けて千葉県学力向上通信として発信しています。

令和5年度千葉県学力向上通信 vol.4

COMPASS

令和5年度全国学力・学習状況調査の結果を分析し、活用しましょう！！

教科に関する調査（平均正答率）

小学校	全国	千葉県	各校	中学校	全国	千葉県	各校
国語	67.2%	67%	%	国語	69.8%	69%	%
算数	62.5%	62%	%	数学	51.0%	51%	%
				英語	45.6%	46%	%

千葉県を含む公立学校の結果です。
中学校英語は「習すこと」以外の結果です。

全国と千葉県を比較すると同等の状況です。まず、先生方が、各校の実態を把握することが大切です！各校の結果を、上の表に記入しましょう。

【千葉県の平均正答率の推移】

■グラフは全国平均と比べて示しています。

小学校

年度	国語	算数
H22	0.8	-0.5
H23	0.2	-0.2
H24	-0.2	-0.2
H25	0.4	-0.2

中学校

年度	国語	数学	英語
H22	0	-1.2	-0.8
H23	-0.8	-1.2	-1.4
H24	-0.2	-1.2	-0.8
H25	0.4	-0.8	-0.2

生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

○学校の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができています。今後も主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に取り組んでいきましょう。

【児童質問紙36・生徒質問紙40】

R4

項目	小学校	中学校
話し合い	48.9	43.1
グループワーク	42.4	34.8
発表発表	41.3	30.9
発表発表	41.3	30.9
発表発表	41.3	30.9

R5

項目	小学校	中学校
話し合い	37.1	44.0
グループワーク	38.6	43.2
発表発表	32.3	46.1
発表発表	34.3	46.4

千葉県の肯定的回答の割合が、昨年度と比較すると小学校・中学校ともにそれぞれ増加しています。今後も主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に取り組んでいきましょう。

調査結果を分析・活用するには...

そもそも全国学力・学習状況調査の分析ってどうすればいいんですか？

県の分析ツールを活用すれば、さまざまな分析ができますよ。

分析ツールとは？

文部科学省から提供される調査結果データを簡単な操作で可視化して、実態把握や授業改善サイクルの確立を支援する千葉県独自のソフトです。

教科別・調査結果分析

生活習慣分析

なるほど！「教科・質問紙分析シート」は、数値の表とレーダーチャートで見やすいですね。さらに「経年分析シート」を見ると学校としての成果や課題を明らかにすることができそうですね。

この他に「クロス集計シート」もあります。児童生徒の生活習慣や学習習慣と学力の関係を確認ができ、学校だよりや保護者会でも活用できます。

【令和5年度版分析ツール】は8月19日～9月上旬頃に千葉県総合教育センターのホームページにアップされる予定です。

また、令和5年7月18日付け総務部第468号で、分析シートを活用した結果分析等についての動画の案内もしています。こちらもご覧になりながら、各校の結果をきちんと分析して学校全体で授業改善につなげたり、児童生徒の学習改善につなげていきましょう。

【令和4年度 学力向上の手引き】はこちらからダウンロードできます。

学力向上の窓 明日の指導改善のヒントは、質問紙調査にあり！！

例えば、表面の児童生徒質問紙の内容と対応している質問紙調査の項目は小・中学校とも【29】になります。各校の児童生徒の回答の様子と学校の回答の様子について比較することもできます。

また、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善に関する取組状況や児童生徒の学習時間、教科に対する興味・関心、ICTを活用した学習状況等、指導改善のヒントは質問紙調査の結果から見いだすことができます！是非、活用を！！

令和5年度千葉県学力向上通信「COMPASS」vol.4（調査結果の分析・活用）

●学力向上リーフレット

全国学力・学習状況調査を活用した授業改善について、具体的な取組例などをリーフレットにまとめ、県内の小中学校等に配付しています。

思考し、表現する力を高めるには？

～実践モデルプログラムを活用した探究的な授業を行いましょ～

児童生徒の思考力や表現力を高めるには、児童生徒が主体的に課題解決に取り組む探究的な学習を行うことが大切です。

「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラムを活用した授業改善を行うことで、探究的な授業と関わっています。

また、授業（あるいは単元）の中でのポイントを見つけておくことで、より探究的な学習を進めていくことができます！

「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラム

① 探究的な学習を進めていくためのポイント！

ポイント① 学習課題を児童生徒自身が立てられようにする！

▶ 特定の単元で学習している際には、児童生徒が疑問に思い、調べたい学習したいという意欲が持てるようにしましょう。

▶ 資料から分かること、体験活動で学んだこと、前の単元で学んだ疑問に思ったことなど、児童生徒が「自分ごと」として設定できる課題を導き出すための導入を工夫しましょう。

ポイント② 課題解決に向けての共通し児童生徒自身が立てられようにする！

▶ 既習事項などから、課題を解決するための仮説を立てる時間を設けましょう。

▶ 仮説の検証を主体的に行わせるようにしていくことが大切です。

▶ 対話的な活動を行うことで、本当にできるか？と考え直す時間を設定することで考えが深まります。

ポイント③ 課題解決に向けた学習の振り返りを行う！

▶ 児童生徒自身が学習してきたことについて、振り返りの時間を設けましょう。

▶ 「どのような取組をしたことで、どのようなことを学んだのか？」「課題に対する自分の考えをどのようにか？」といったポイントを尋ねて自分の意欲を振り返り記入しましょう。

「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラムについてはこちら
https://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/shidou/gakuryoku/zissenmoderu/moderupuro.html

質問紙調査を活用しましょう！

下のグラフは令和4年度に実施した「ちびっこ 学力向上 総合プラン」に関するアンケートで「全国学力・学習状況調査の結果について、どのようなことを分析していますか？」という問いに対する回答結果です。

項目	小学校	中学校
学力調査結果の傾向	46.8%	89.7%
学力向上に関する取組の効果検証	37.5%	85.6%
学力調査における経年変化	70.5%	84.1%
学力調査における教科別分析	4.8%	88.8%
学力調査における問題別分析	49.0%	68.6%
児童生徒質問紙調査結果と学力の相関	31.2%	60.9%
学校別質問紙調査結果と学力の相関	28.5%	60.9%
その他	0.2%	

教科別や調査結果の傾向など比べると、質問紙調査の活用や学力向上に関する取組の効果検証としての活用はあまり行われていないようです。

児童生徒の実態の一面を捉え、学力向上に向けて仮説を立てることなどによって、質問紙調査も有効に活用できます。

このような取組はどうですか？

① 研究主題と関連する質問紙調査の内容を確認する。
② 各学校で設定している研究主題と関連する質問紙調査を児童生徒が活用し、学校別調査の傾向が読みとれます。
(例)「ICT活用」対話的な学習の充実
③ 児童生徒に向けては「児童生徒質問紙調査の内容」
→ 学習意欲や学習態度などの振り返りや質問紙調査に追加して効果的な取組を捉える。
→ 先生方に向けては「学校別質問紙調査の内容」
→ 先生方の学習の振り返りやその結果を取り戻す。
④ 質問紙調査の結果とアンケート結果について相関関係等を分析することで、取組状況と学力向上に対する効果を確認することが可能です。

3か年計画などで研究主題を設定している場合は、全国学力・学習状況調査を活用して、学力だけでなく児童生徒の取組と学力の相関などの経年変化も取組ることが可能です。

学力が向上した取組の4つの共通点！

学力向上推進体制

ポイント 学力向上部会を組織して位置づける

- ▶ 全国学力・学習状況調査の課題や各校の学習状況をチームで分析
- ▶ 全員が一丸に全国学力・学習状況調査を課題に備える時間を確保
- ▶ ミドルリーダーや管理職による教科部会の参画及び指導・助言
- ▶ 中学校区で、委員交流会（オンライン会議）を有効活用
- ▶ 少人数指導や教科担任の適正配置

授業改善の手立て

ポイント 全学年・全教科間一歩調の共通理解

- ▶ 縦断的に進める「授業改善プロジェクト」作成
- ▶ ベンチャー・中間の研修や手探りするメンター制の教研・授業研究
- ▶ PDCサイクルを回しやすい（具体的な研究主題）の設定
- ▶ ICTの効果的な活用方法を検討する校内研修
- ▶ 若手カンパニオンなどで働き手（学校の実態に応じた学習スタグダード（指南））の確立

学力が伸びる教育課程の工夫

ポイント 子供が学びやすい環境を整える

- ▶ 全国学力・学習状況調査結果や学校評価アンケートの結果を反映した教育課程構築
- ▶ 各学年（年）と各教科（種）の学習計画のすり合わせによる指導要領の共通理解
- ▶ 朝・中・夜の学習などのモデルを活用した学習習慣の確立
- ▶ 全国学力・学習状況調査から得られた課題やその改善策を保護者会、学校だよりで情報共有
- ▶ 授業改善プロジェクトによる自己評価の促進
- ▶ 地域から「読み聞かせ」「学習支援員」「ICT補償員」等のボランティアを募集

家庭・地域との連携

ポイント 学校外からの資源・物的資源を有効活用

- ▶ 家庭学習のための教育（自習時間）や家庭学習の方法を奨励
- ▶ 自主学習ノートの活用と読書ノートの構築
- ▶ 全国学力・学習状況調査から得られた課題やその改善策を保護者会、学校だよりで情報共有
- ▶ 授業改善プロジェクトによる自己評価の促進
- ▶ 地域から「読み聞かせ」「学習支援員」「ICT補償員」等のボランティアを募集

上記は千葉県内で実際に学力向上の成果をあげている小・中学校の実践例です。「チーム学校」として学力向上に取り組むことと大きな効果が認められます。大切なことは、効果的な方法や手段を確立すること、事前に決めておくことです。実践するだけで満足せず、ねらいが達成できたかを必ず検証しましょう。

令和4年度学力向上リーフレット

※本ページに関連する URL 及び QR コード

<https://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/shidou/gakuryoku/bunseki-katuyou/bunseki-katuyou2020.html>

